

山口市男女共同参画センター だより

平成29年9月号

発行:山口市男女共同参画センター
 編集:山口市男女共同参画ネットワーク広報委員会
 〒753-0074 山口市中央二丁目5番1号(山口市民会館事務所2階)
 TEL/FAX 083-934-2841 <http://www.y-djc.com/> ✉mw3kaku@c-able.ne.jp

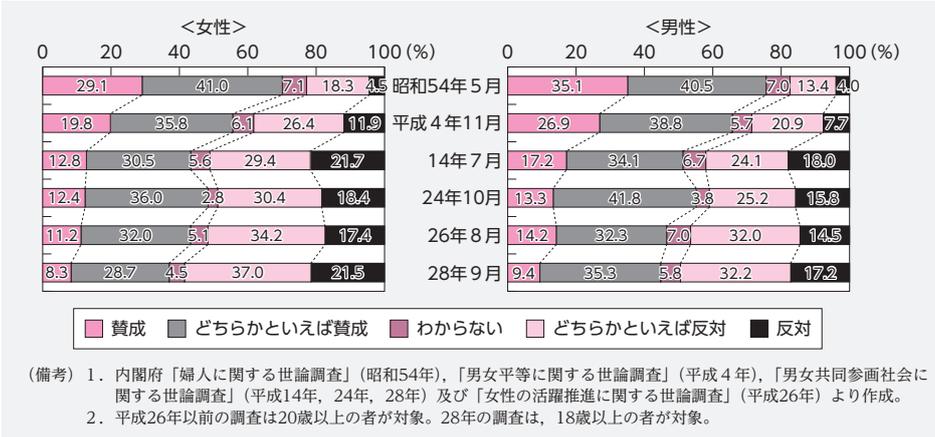
【国の動き】

「平成29年版男女共同参画白書」が6月に内閣府より公表されました。白書においても、昨年の女性活躍推進法の施行をきっかけに女性活躍を推進する取組みが進められつつあることや、社会全体としてその動きを加速させ、拡大することが必要であることが述べられています。以下に内容の一部を抜粋してご紹介します。

<性別役割分担意識の変化>

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方（性別役割分担意識）に反対する者の割合（「反対」＋「どちらかといえば反対」）は男女とも長期的に増加傾向にあり、かつ、平成28年調査では、男女ともに反対の割合が賛成の割合（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）を上回っています。（I-3-5図）

I-3-5図 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に関する意識の変化

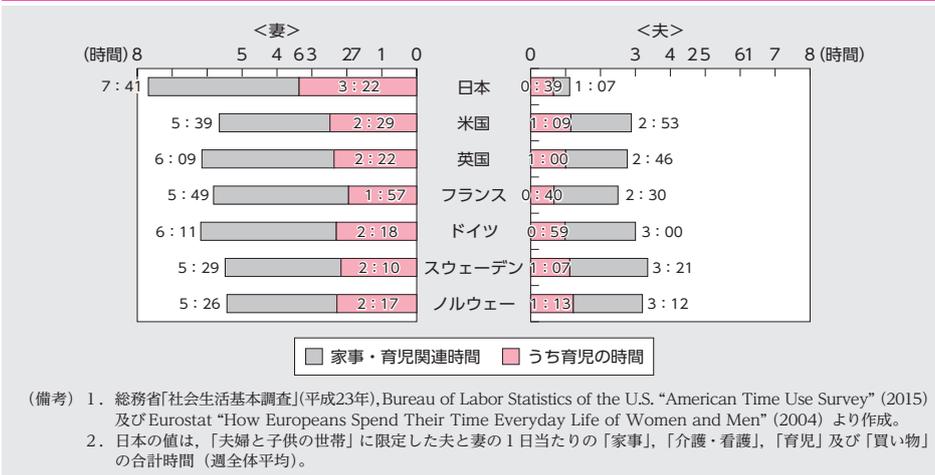


<男性の家事・育児の実施状況>

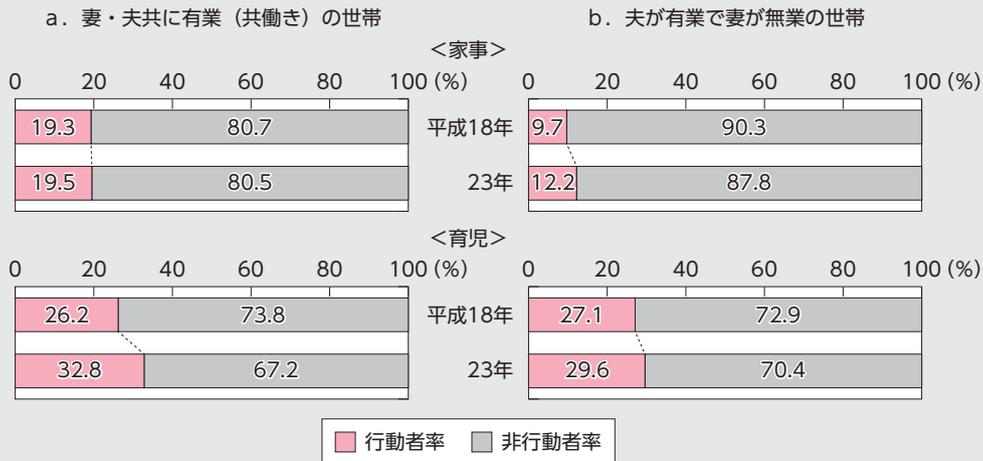
我が国では、平成23年における6歳未満の子供を持つ夫の家事・育児関連に費やす時間（1日当たり）は67分と、他の先進国と比較して低水準にとどまっています。（I-3-8図）

1日当たり行動者率で見ると、「家事」については、妻・夫共に有業（共働き）の世帯で約8割、夫が有業で妻が無業の世帯で約9割の夫が行っておらず、「育児」については、妻の就業状態にかかわらず、約7割の夫が行っていません。（I-3-9図）

I-3-8図 6歳未満の子供を持つ夫婦の家事・育児関連時間（1日当たり、国際比較）



I-3-9図 6歳未満の子供を持つ夫の家事・育児関連行動者率



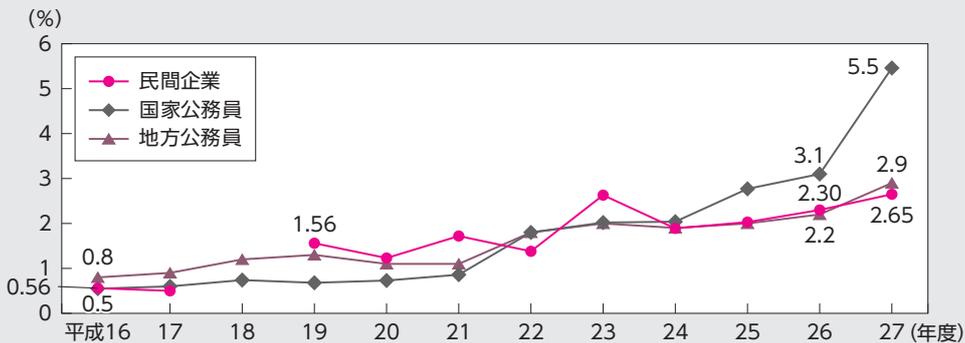
(備考) 1. 総務省「社会生活基本調査」より作成。
 2. 「夫婦と子供の世帯」における6歳未満の子供を持つ夫の1日当たりの家事関連(「家事」及び「育児」)の行動者率(週全体平均)。
 ※行動者率……該当する種類の行動をした人の割合(%)
 ※非行動者率……100%-行動者率
 3. 本調査では、15分単位で行動を報告することとなっているため、短時間の行動は報告されない可能性があることに留意が必要である。

<男性の育児休業取得率の推移>

平成27年度における男性の育児休業取得率は、民間企業が2.65%、国家公務員が5.5%、地方公務員が2.9%で、上昇傾向にあります。しかし、いずれも女性(民間企業81.5%、国家公務員100.3%、地方公務員97.5%)と比較すると、依然として低水準にあり、男女間で大きな差があることがわかります。(I-3-9図)

男性の配偶者出産休暇取得率は、国家公務員が73.1%(27年度、前年度は70.1%)、地方公務員が64.3%(26年度)であり、男性の育児参加のための休暇取得率は、国家公務員が43.5%(27年度、前年度は36.1%)、地方公務員が21.7%(26年度)です。経年比較可能な国家公務員について見ると、いずれも前年度より増加しています。(I-3-10図)

I-3-10図 男性の育児休業取得率の推移



(備考) 1. 国家公務員は、平成22年度までは総務省・人事院「女性国家公務員の採用・登用の拡大状況等のフォローアップの実施結果」、23年度から25年度は「女性国家公務員の登用状況及び国家公務員の育児休業の取得状況のフォローアップ」、26年度及び27年度は内閣官房内閣人事局「女性国家公務員の登用状況及び国家公務員の育児休業等の取得状況のフォローアップ」より作成。
 2. 地方公務員は、総務省「地方公共団体の勤務条件等に関する調査結果」より作成。
 3. 育児休業取得率の算出方法は、当該年度中に子が出生した者の数に対する当該年度中に新たに育児休業を取得した者(再度の育児休業者を除く)の数の割合
 4. 東日本大震災のため、国家公務員の22年度値は、調査の実施が困難な官署に在勤する職員(850人)を除く。地方公務員の22年度値は、岩手県の1市1町、宮城県の1町を除く。

山口市の「男女共同参画に関する市民意識調査」報告書より

さて、山口市では平成29年2月に、5年毎に行われる「男女共同参画に関する市民意識調査」の報告書が発行されました。そこで、国の白書と同じ趣旨の調査結果について、全国と山口市のデータを比較してみました。

■調査概要

目的：性別にとらわれることなく一人の個人としていきいきと暮らせるような「男女共同参画社会」の実現に向けて、山口市の男女を対象に、役割意識や日常生活などについて調査し、今後の男女共同参画施策を効果的に推進するための検討資料にすることを目的とする。

対象：18歳以上の山口市民 2000人

調査期間：平成28年9月13日～10月14日

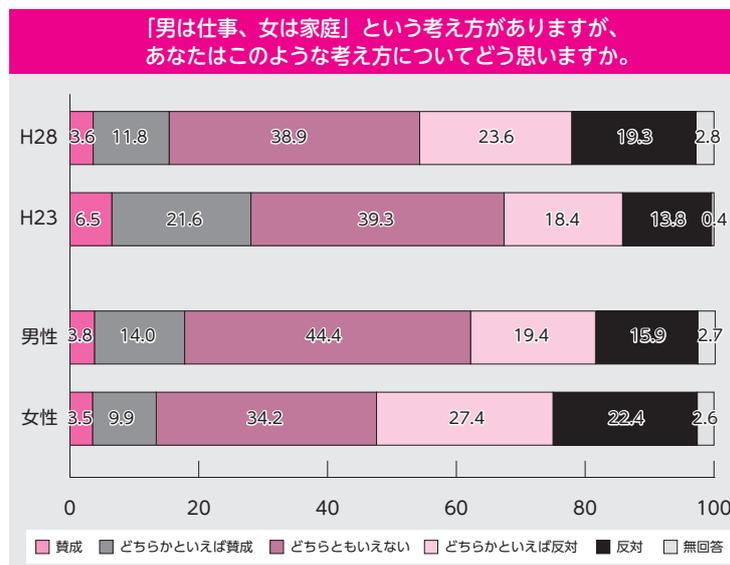
調査方法：無作為抽出法による郵送調査

<ジェンダー意識について>

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、全体では、「どちらともいえない」が38.9%と最も多く、次に「どちらかといえば反対」が23.6%、「反対」が19.3%となっています。平成23年の前回調査と比較すると、「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が減少し、「反対」「どちらかといえば反対」の割合が増加しました。

性別でみると、男性では「どちらかといえば反対」19.4%「反対」15.9%に対して、女性では「どちらかといえば反対」27.4%、「反対」22.4%であり、女性の方がこの考え方に反対という意見が多く、半数を占めています。

※白書の調査では反対の割合が山口市より高く、男性49.4%、女性58.5%でした。山口市ではこの性別役割分担の考えが全国よりも根強い傾向にあることがわかりました。



<家庭における男女共同参画について>

「家事」「育児」「介護」について男性に聞きました。

■食事の支度

「食事の支度」について、男性で「する」と答えた割合がもっとも高いのは、18歳以上20歳未満と20歳代とともに25.0%、最も低いのは30歳代で13.5%でした。

■小さい子どもの世話

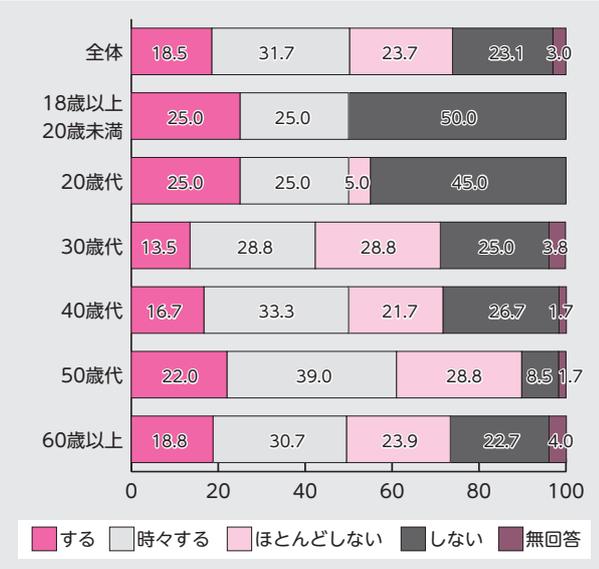
「小さい子どもの世話」について、男性で「する」と答えた割合が高いのは、40歳代で36.7%です。

■老人や病人の介護

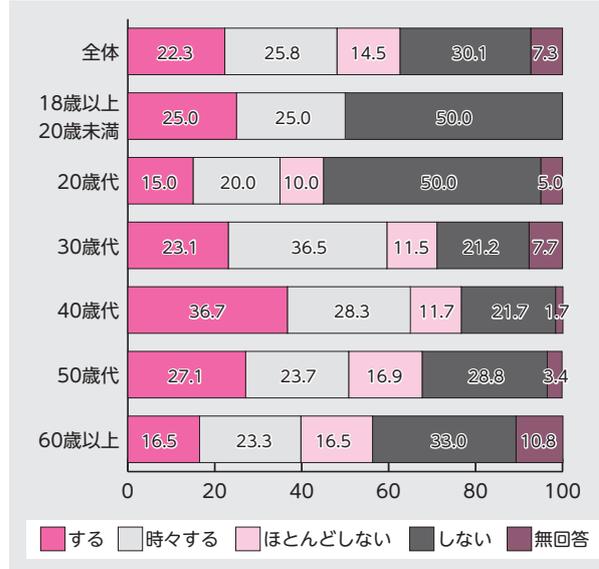
「老人や病人等の介護」について、男性では50歳代20.3%が最も高く、20歳代では、1割弱でした。

市の調査

食事の支度 (男性)

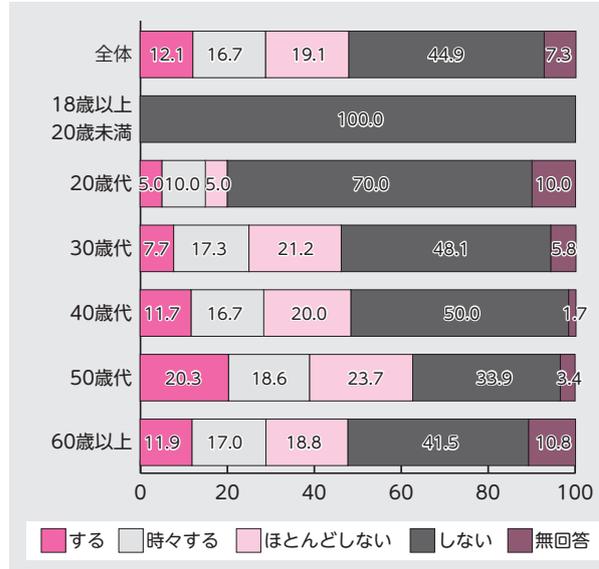


小さい子どもの世話 (男性)



※山口市と白書とでは調査のしかたが違いため、単純に比較することは難しいのですが、白書では「家事」については約1～2割、「育児」で約3割の男性が行っているという結果が出ています。山口市は育児について40代で3割以上と高かったのですが、他の家事はほぼ全国と同様に1割～3割未満という割合でした。

老人や病人の介護 (男性)



山口市特定事業主行動計画より

<育児休業取得率について>

山口市役所における男女別の育児休業取得率と男性の配偶者出産休暇等取得率 (平成28年度)

	育児休業取得率
男性	2.4%
女性	100.0%

	男性の配偶者出産休暇等取得率
取得率	97.6%
取得率 (10日以上)	0.0%

※山口市特定事業主行動計画より『山口市役所における女性活躍情報の公表について』(平成29年6月公表)

山口市職員については、男性の育児休業取得率が平成27年の0%から平成28年の2.4%へと上昇しつつあるものの、女性の取得率の100%には遠く及ばない状況です。一方、男性の配偶者出産休暇取得率は、平成27年で82.1%でしたが、平成28年は97.6%でした。

白書において地方公務員のそれぞれの取得率をみると、育児休業が2.9% (27年度)、配偶者出産休暇は64.3% (26年度) でしたので、山口市職員は育児休業では全国とほぼ同率、配偶者出産休暇は全国より高い割合で取得されていることがわかります。ただし、配偶者出産休暇を10日以上取る人はまだ皆無であることから、休暇のさらなる定着と充実が期待されます。

調査目的にもあるように、誰もが性別にとらわれることなく、一人の個人としていきいきと暮らせる男女共同参画社会を築くために、是非これらの調査報告を生かしていきたいものです。山口市男女共同参画センターでも、講座や講演会等の学習機会の提供や、情報収集・提供、相談など様々な事業を行うことで、男女共同参画社会の実現を目指しています。

瀬地山角氏講演会「お笑いジェンダー論」

講師：東京大学大学院教授 瀬地山 角氏

7月16日（土）、「お笑いジェンダー論 ～笑いながら考える家庭のこと、仕事のこと、未来のこと～」が開かれました。参加者は中高生から子育て世代、壮年から高年の幅広い年代の男性、女性、総勢56名！「今日は『笑点』の前座を目指します」という瀬地山先生の言葉どおり、笑いの絶えない講座となりました。



映像を交えて男性像や女性像（ジェンダー）の問題点を考えつつ、この少子高齢化の時代を乗り切るには、女性と男性で仕事も家事も育児も共に担い、新しい社会をつくる必要があると結ばれました。参加者の皆さんは「笑いながらいろいろなことを考えさせられた」と会場を後にされました。

パパと子どもの料理教室

講師：栄養士 上杉 照子氏

平成29年7月23日（日）、パパと子どもの料理教室を開催しました。これは男性の家事参画をすすめる目的で行いました。

カップdeケーキ寿司をはじめデザートを含めて4種類の料理を作りました。

日頃から料理をしないお父さんは何から手を付けていいのかわたし、それをしり目にてきぱきと指図するお姉ちゃん。ぎこちない手つきで包丁を握る妹や弟。微笑ましい雰囲気の中調理は進みました。出来上がった料理は、お母さんを交えて家族で試食し、自分で作った料理は大変おいしいと好評でした。

食事の後の交流会では日頃料理を作るのは誰か聞いたところ、大半が“お母さん”と答え、“お父さん”との答えはありませんでした。また、子どもと料理をした感想を聞いてみると何種類ものメニューを作るのは大変で、日ごろの“お母さん”の苦勞が判ったとお父さんからの意見もありました。

料理は女性だけが作るもではなく、お父さんも子どももできる人ができる時にお互いを思いあって作るものだという理解をいただける良い機会になったと思います。



●10/7 (土) 13:30~15:30

飯野奈津子氏講演会

「経済分野における女性の活躍について」

講師：NHK解説委員 飯野 奈津子氏

●10/17 (火) 10:00~12:00

すてっぷあっぷガイダンス

講師：NPO法人コミュニティ友志会

代表理事 松永 朋子氏

対象：再就職を考えている子育て中の女性

社会の現状について理解を深め、適職診断や就職

に関する情報提供を受けることができます。

●10/21 (土) 13:30~15:30

いつまでも安心して暮らせるまちづくり
～地域包括ケアシステム推進のために

私たちができること～

講師：山口市高齢福祉課 市瀬 欽子氏

上記の講座の会場はいずれも男女共同参画センターにて。

参加費・託児は無料(要予約 6ヶ月～未就学児)

【平成29年山口市男女共同参画センターフェスティバル】

11月23日(木・祝)10~15時

山口市民会館小ホール・展示ホール・山口市男女共同参画センター

講演会 13:00~15:00

大黒柱マザー

～夫が仕事をやめたから一家で海外に引っ越してみた!～

講師：タレント・エッセイスト

小島 慶子氏

子育てワークショップ 10:00~11:30

親子で楽しくサイエンス -196℃の世界を体験しよう!

講師：山口大学創成科学研究科 原田 直幸氏

国際交流ワークショップ 10:00~11:30

パネルディスカッション “交流都市からこんにちは”

パネリスト：山口県・山口市の姉妹都市出身の外国人

—— この他にも楽しい企画満載!! ——



おんなの目

おとこの目

今年の夏も暑い夏だったが、そんな中でも日々テレビから流れる高校球児たちの熱いプレーには、野球ファンならずとも感動を覚えるところがある。ただ、灼熱の中での連戦連投には、成長期の選手の身体に大きなタ

メージとなることもあり、大会開催にはいろいろな工夫が必要となってくるところだ。

そんな中、元巨人の桑田真澄投手が面白いアイデアを出している。それは、「日程が過密になる3回戦以降は女子の試合を挟んでいく」というものだ。確かにそうすれば投手の連投はなくなり、選手は高いパフォーマンスをすることができる。また、

女子選手にとっても、最高の舞台が甲子園となることで、競技人口も増えてくるだろう。

日程が長くなることで、費用もかかるだろうが、オリンピックやパラリンピック、スペシャルオリンピックスにおいても女子の開催競技・種目を増やす方向になってきている。関係者には、この提言を前向きにとらえていただきたいところだ。